

くすのき

校訓「かしこく やさしく たましく そしてふるさとを愛する子どもに」

西合志第一小学校
学校だより 第62号
文責 校長 西村羊治

令和7年1月9日

心をつなぐ手紙！

昨年の11月、福岡教育大学の2年生から手紙がきました。突然だったので誰かなど驚きましたが、約8年前に6年生で担任をさせていただいた教え子からの手紙でした。私はその小学校には1年しか勤務できず、その子とはもちろん1年間だけの関わりでした。私はその前任校で6年間、教務主任をしていたので久しぶりの担任です。「担任をしたい」と、ずっとと思っていたのですが、その6年間のブランクは大きく、自分が想像する理想の学級経営はできませんでした。6年生にとっては、小学校生活最後の一生に一度しかない1年間です。その大切な時間を充実したものにすることは、担任として自覚を持ち実践すべきことです。でも、それができたとは言えない反省の1年間でした。しかし、その手紙の中に、「今、教職に向けて大学で勉強する中で、6年生の時に西村先生が担任としてクラスのみんなが、どうしたら楽しく学校に通えるかを考えていたことや『先生は大変だったろうなあ』と思い返すことがあります。」との一文がありました。6年生だった児童が、8年経ち大学生となり学校の先生になるための勉強をする中で、自分が6年のときの担任の気持ちに思いを馳せてくれるなんて、教師冥利に尽きます。約二年後、正式な教師になることを心から祈っています。

また、昨年の12月26日（木）には、西南小の松本先生が来校され、西合志南小学校5年4組と担任の松本先生からの心温まる、これまた嬉しいお手紙をいただきました。昨年の11月合志市内の小中学校で人権学習の公開授業の取組がありました。私は肩書き上、授業の助言者となりました。人権学習は担任時代ずっと取り組んできました。また、公開授業もたくさん参観してきました。しかし、助言者を仰せつかるのは初めてのことでした。また、8月にあった関係者の顔合わせには、肩の手術のため参加できなかつたので、教材の内容や児童の実態もわからない状態でした。なので、西南小の田中校長先生や松本先生にお願いして、事前に授業を見せてもらったのです。事前の授業を2回、本番が1回、最後の1回と4時間は見せてもらいました。1回目はむしろ责任感で見せてもらったのですが、2回目からは私が5年4組のみんなに会いたくて、松本先生の授業を見たくて、参観させていただきました。なぜかと言うと、学級が温かいのです、子ども達が部外者の私を受け入れてくれるのです、松本先生の児童への愛情がすばらしいのです。授業を見ていて子ども達の勇気ややさしさ、共感する気持ちや互いを受け入れる気持ちが、あふれていきました。助言者をさせていただくことで、西南小の5年4組のみんなと出会うことができました。そして、いただいた手紙には、私のちょっとした声かけや仕草に対する感謝の気持ちが、たくさん書いてありました。たったの一言、たったの一つの動作に対して、「うれしかった」や「勇気が出ました」などの感謝の言葉が、丁寧に手書きで書いてあるのです。その子達は授業中、勇気を出して声を詰まらせながら自分を公開していました。その姿や言葉に共感し涙している子もいました。ある子は「人権学習を楽しく思えるようになりました。自分を語れて、人のことを知れて。」と発言しました。すばらしい実践でした。嬉しいお手紙でした。5年4組の皆さん、ありがとうございました。

2つの手紙のことを書きましたが、本当に教師冥利に尽くる嬉しいお手紙でした。相手の気持ちを想像し書く手紙は、心が温まり心をつなぐものだと感じました。西合志第一小学校の皆さんも手紙の良さがわかる人たちばかりだと思います。